

捕獲等事業評価シート

(イノシシ)

(千葉県環境生活部自然保護課)

評価シート（イノシシ：県北部区域）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	県北部区域
事業主体	千葉県 環境生活部 自然保護課
事業実施期間	令和7年6月2日～令和7年12月16日
捕獲手法	くくりわな、箱わな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	52,787,781 円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

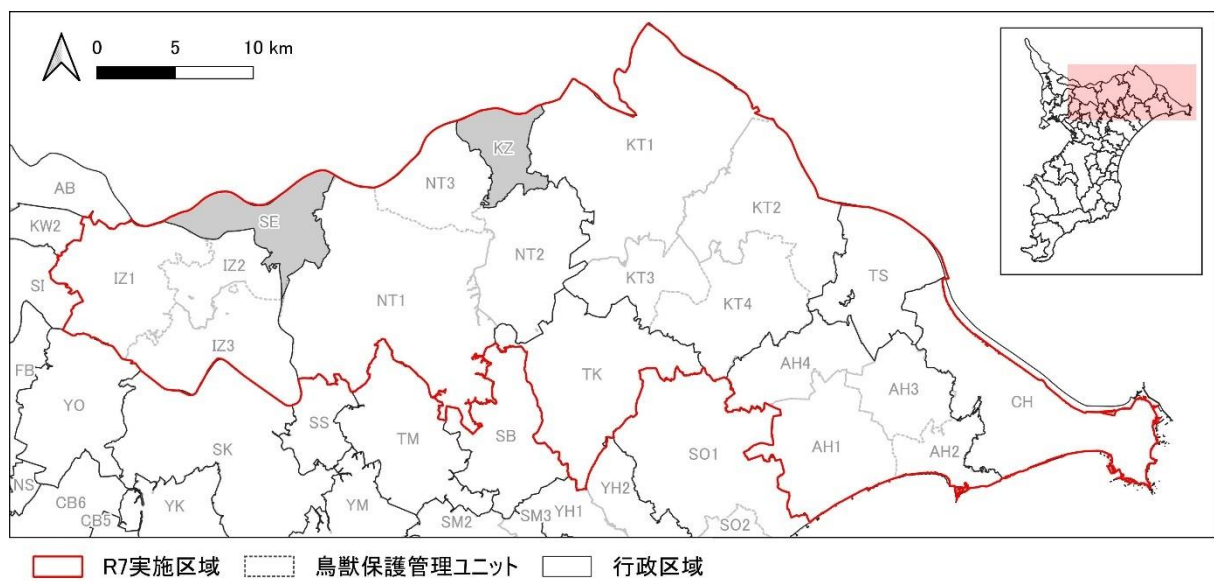


図1 イノシシの指定管理事業実施区域（県北部区域）

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	300 頭 (うち成獣メスは全捕獲数の 3 割程度)	くくりわな：120 頭 箱わな：390 頭 計：510 頭 (うち、成獣メスの捕獲頭数：89 頭)	捕獲目標の達成率は 170%で、平成 27 年度以降最多の実績となった。 成獣メスの捕獲割合は、全体の 17.5%にとどまり、目標には届かなかった。
捕獲作業量	110 日間程度の期間で捕獲を実施 (190 カ所程度) (前年度事業の実績) くくりわな：23,890 わな日 箱わな：10,538 わな日	くくりわな：23,812 わな日 箱わな：10,947 わな日	くくりわなは前年度と同程度の作業量であったが、箱わなは前年度より 400 わな日程度作業量が増加した。
効率的な捕獲	予定なし (前年度事業の実績) くくりわな CPUE：3.73 箱わな CPUE：26.57 ※CPUE：(捕獲数/わな日)×1000 で算出	くくりわな CPUE：5.04 箱わな CPUE：35.63 ※CPUE：(捕獲数/わな日)×1000 で算出	令和 7 年度の CPUE は、くくりわな、箱わなともに令和 6 年度を大きく上回り、効率的な捕獲を実施することができた。
事業に要した人員数	予定なし	計 2,219 人日	従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.23 頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出した。	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、実施区域の関係者と協議の上、埋設や焼却等適切に処理した。	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・非鉛製銃弾を使用 ・錯誤捕獲防止用わなを使用	・非鉛製銃弾を使用 ・錯誤捕獲防止用わなを使用	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	予定なし (前年度事業の実績) 成獣メス 38 頭 (10.3%) 成獣オス 59 頭 (16.0%) 幼獣メス 135 頭 (36.6%) 幼獣オス 177 頭 (34.7%) ※ () 内の数値は、合計捕獲頭数に対する割合	成獣メス 89 頭 (17.5%) 成獣オス 92 頭 (18.0%) 幼獣メス 152 頭 (29.8%) 幼獣オス 177 頭 (34.7%) ※ () 内の数値は、合計捕獲頭数に対する割合	成獣メスの捕獲割合はおよそ 17.5%と目標よりも低い水準となったが、前年度 (10.3%) より増加した。

表2 年度別のわな捕獲の作業及び捕獲状況（県北部地域）

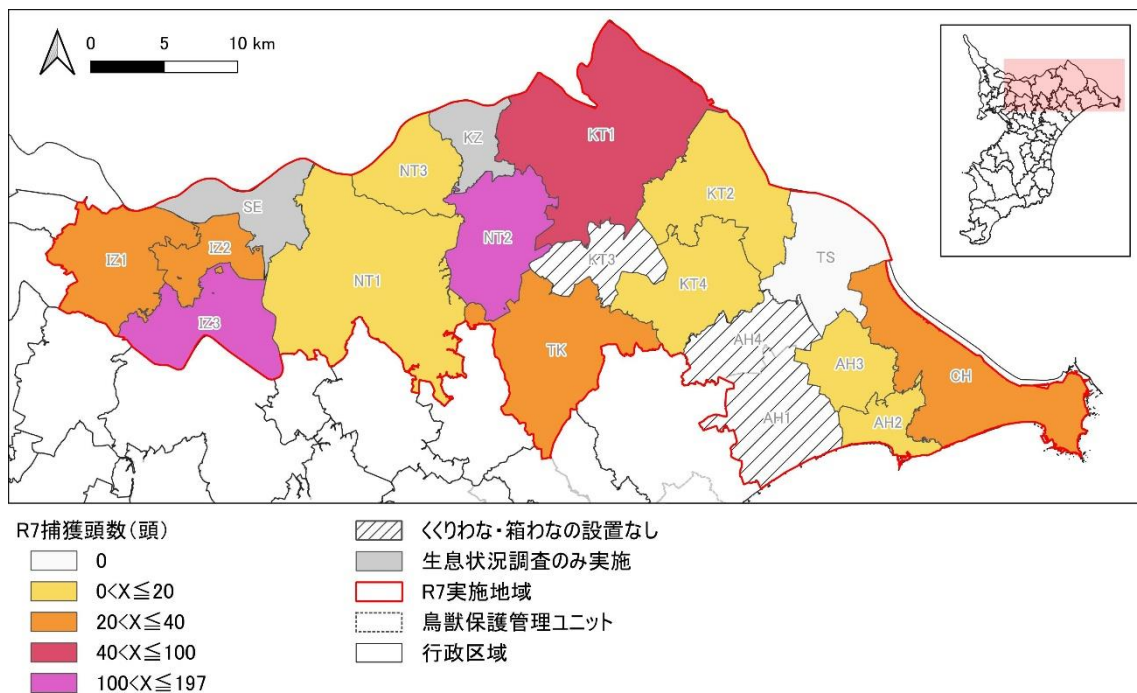
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
くりわな											
わな数	43	60	60	72	59	219	214	208	201	212	208
わな日	1,529	2,451	6,265	8,574	6,930	33,841	26,292	24,015	23,001	23,890	23,812
空はじき	6	16	3	16	28	54	27	21	7	14	6
空はじき率	3.92	6.53	0.48	1.87	4.04	1.60	1.03	0.87	0.30	0.59	0.25
捕獲数	3	7	14	23	13	140	107	103	77	89	120
成獣メス割合(%)	33.3	71.4	7.1	17.4	38.5	29.3	29.9	23.3	27.3	24.7	31.7
幼獣割合(%)	0.0	0.0	71.4	47.8	30.8	43.6	39.3	40.8	33.8	34.8	37.5
CPUE	1.96	2.86	2.23	2.68	1.88	4.14	4.07	4.29	3.35	3.73	5.04
箱わな											
わな数	7	16	23	25	37	84	91	97	90	97	96
わな日	229	679	2,396	2,985	4,320	13,177	11,254	10,596	10,413	10,538	10,947
捕獲数	0	5	9	18	51	329	239	309	312	280	390
成獣メス割合(%)	-	0.0	0.0	11.1	13.7	7.0	2.5	14.6	3.8	5.7	13.8
幼獣割合(%)	-	80.0	100.0	83.3	72.5	85.1	92.5	65.4	93.3	86.1	72.8
CPUE	0.00	7.36	3.76	6.03	11.81	24.97	21.24	29.16	29.96	26.57	35.63
合計											
目標捕獲数	-	12	14	30	40	240	230	230	280	280	300
捕獲数	3	12	23	41	64	469	346	412	389	369	510
成獣メス割合(%)	33.3	41.7	4.3	14.6	18.8	13.6	11.0	16.7	8.5	10.3	17.5
幼獣割合(%)	0.0	33.3	82.6	63.4	64.1	72.7	76.0	59.2	81.5	73.7	64.5

※CPUEは（捕獲頭数/わな日）×1000、空はじき率は（空はじき/わな日）×1000

※平成27年度は目標捕獲頭数の設定なし

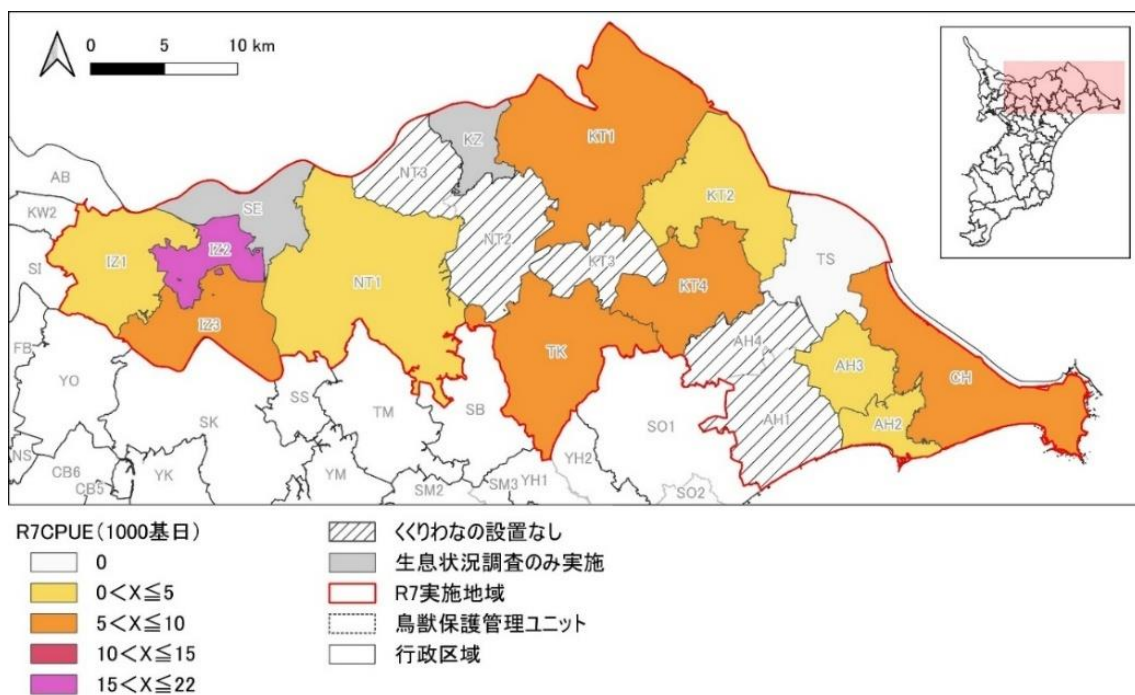
※平成27-28年度は主に冬期、平成29年度以降は夏期から秋期にかけて捕獲を実施

※令和5年度は腐敗により性別不明の1個体を合計に含む



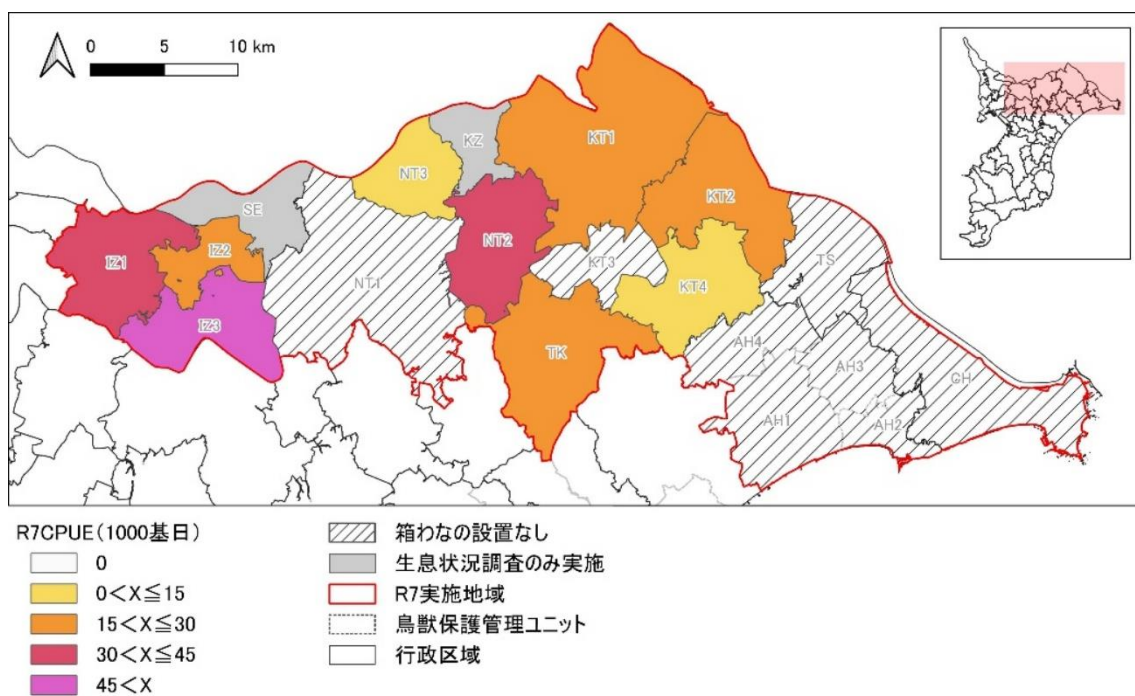
※くりわな及び箱わなによる合計捕獲頭数を集計

図2 ユニットごとの捕獲数（県北部区域）



※くくりわなと箱わなのCPUEは値の幅が異なるため、それぞれ異なる凡例の数値を設定している点に留意。

図3 ユニットごとのCPUE（くくりわな）（県北部区域）



※くくりわなと箱わなのCPUEは値の幅が異なるため、それぞれ異なる凡例の数値を設定している点に留意。

図4 ユニットごとのCPUE（箱わな）（県北部区域）

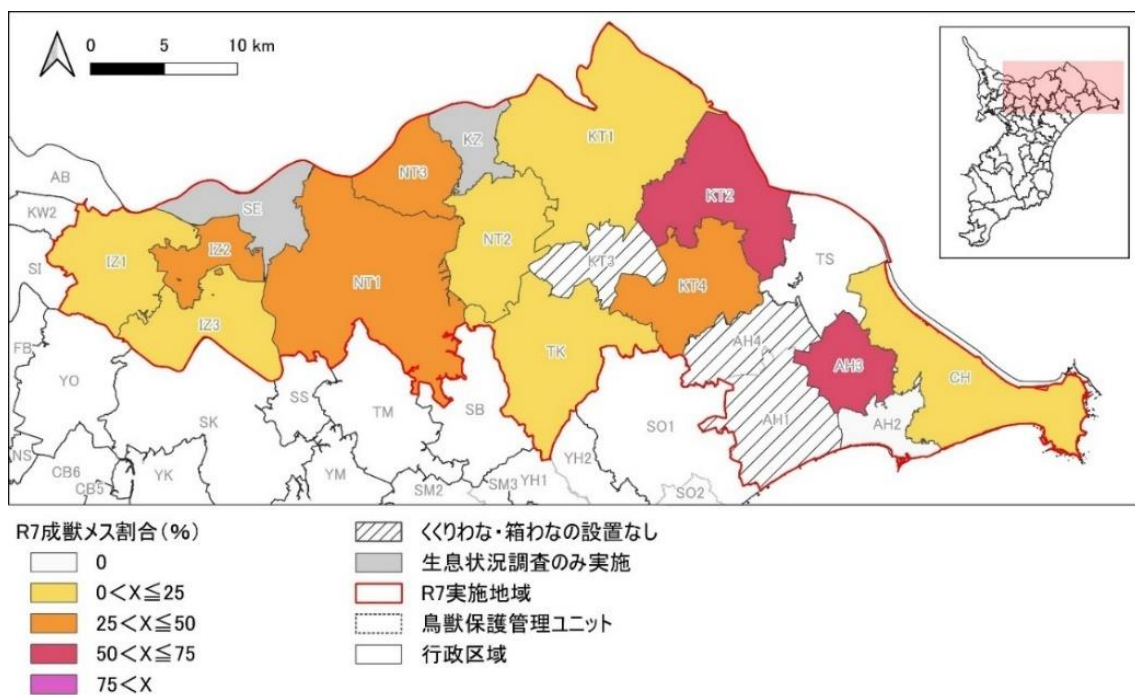


図5 ユニットごとの捕獲頭数に対する成獣メス割合（県北部区域）

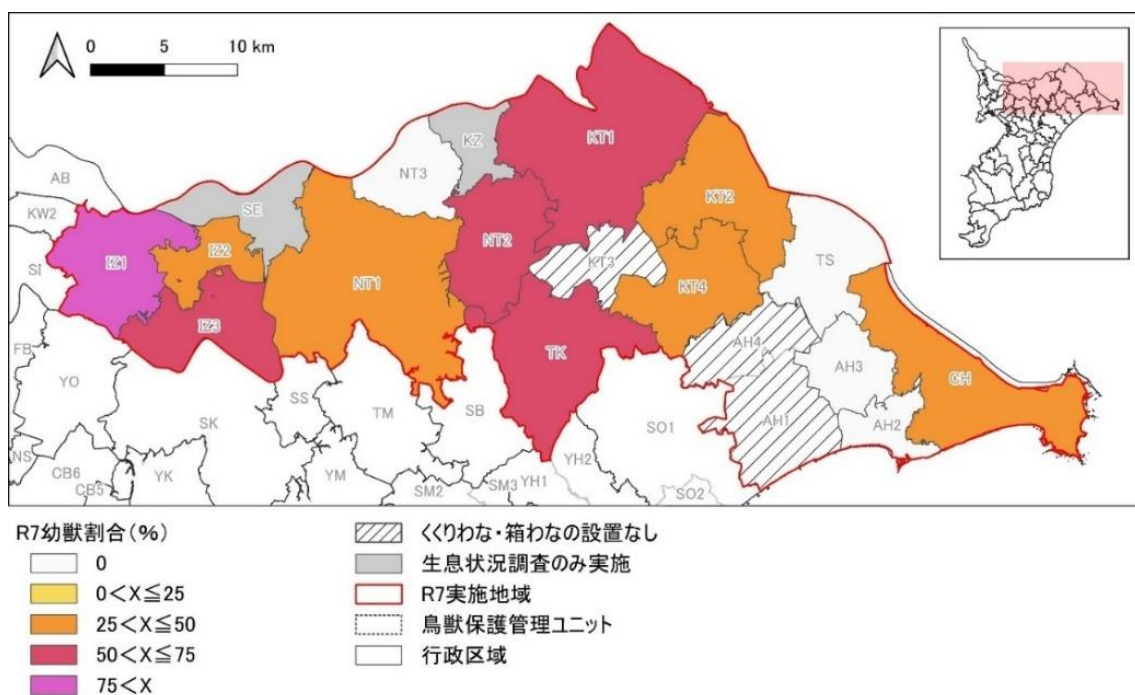


図6 ユニットごとの捕獲数に対する幼獣割合（県北部区域）

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

県北部区域

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	※イノシシは個体数の変動が大きいいため、本事業では単年度の比較ではなく、3年間の傾向に基づいた評価を行っている。このため、本項では事業前後の比較ではなく、事業実施期間を含む3年間のイノシシの相対密度の傾向を整理した。 ●モニタリング方法 自動撮影カメラ及び痕跡調査 ⇒イノシシの撮影頻度と痕跡密度から相対密度（統合密度指標）を算出し、傾向を評価 ●結果 ・ 印西市の相対密度指標は、同一市内のユニット間でも増減のタイミングが異なるが、IZ2を中心に依然として高い値を示している。 ・ 多古町（TK）では、痕跡調査地点を変更したことが影響したと考えられるが、令和7年に相対密度指標が増加に転じ、高い値を示した ・ そのほかの地域は、概ね横ばい～微増傾向で推移しており、地域全体としては、イノシシの統合密度指標が減少している傾向は見られなかった。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	
評価	・ 銚子市（CH）や東庄町（TS）等では低い値を維持しており、生息密度が低く抑えられているとみられるが、印西市では依然として高い数値が維持されている。このため、地域全体として「生息密度の低下」という目標には至っていないと考えられる。 ・ 多古町（TK）は、調査地点の変更により指標値が高いことが確認され、対策の必要があるユニットの上位と考えられる。

表 3 相対密度（統合密度指標）の推移（県北部区域）

市町村	ユニット	R05	R06	R07
旭市	AH3	-0.79	-0.73	-0.76
銚子市	CH	-0.79	-0.83	-0.86
印西市	IZ1	0.00	1.40	0.37
印西市	IZ2	3.15	0.99	1.70
印西市	IZ3	-0.07	1.28	0.02
香取市	KT1	-0.14	-0.44	0.01
香取市	KT2	-0.76	-0.42	-0.72
香取市	KT4	-0.72	-0.82	-0.47
成田市	NT1	-0.62	-0.52	-0.68
成田市	NT2	-0.71	-0.73	-0.79
芝山町	SB	-0.71	-0.75	-0.76
多古町	TK	-0.71	-0.75	1.19
東庄町	TS	-0.79	-0.83	-0.86

値低  値高

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	—
事業実施後もしくは事業終盤・後半	—
評価	—

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：捕獲目標 300 頭（うち成獣メスを全捕獲数の 3 割程度）に対して、捕獲実績は 510 頭（170%）であり、捕獲目標を達成した。一方、成獣メスの捕獲割合は全体の 17.5%となり、捕獲目標には届かなかった。
	改善点：次期計画では、今年度の捕獲実績と成獣メスの捕獲割合を参考にして、捕獲目標を検討する。
【実施期間】	評価：110 日程度の捕獲作業の予定日数に対し、6 月～11 月の期間にかけて 124 日程度の捕獲作業を実施し、捕獲目標を達成した。
	改善点：捕獲目標を達成するために必要な実施期間を設けて引き続き適切に期間を設定する。
【実施位置】	評価：イノシシが近年定着、増加が確認されている地域に実施区域が設けられており、分布拡大を防止するために有効である地域で捕獲が実施されたと考えられる。
	改善点：イノシシの生息状況を勘案し、引き続き適切に区域を設定する。
【捕獲手法】	評価：くくりわな 208 基、箱わな 96 基を用いて実施した。 機動性が高く、成獣メスの捕獲割合が高いくくりわなを使用することで、イノシシの利用状況の変化に対応して捕獲を実施することができた。くくりわな及び箱わなの CPUE は令和 6 年度と比較して大きく増加した。 成獣メスの捕獲割合はくくりわなは 3 割以上となり、目標を達成したが、箱わなは目標よりも低い結果となった。
	改善点：くくりわなは、成獣メスの捕獲割合が箱わなに比べて高く、成獣メスの捕獲に有効であった。一方で、箱わなの CPUE はくくりわなの CPUE より高く、多くの個体を効率的に捕獲できた。そのため、くくりわなと箱わなの長所を活かしながら、引き続き、両手法を併用して捕獲を進める。
【捕獲コスト】	評価： 県北部及び県中部区域における 1 頭あたりの捕獲コストは令和 4 年度から令和 6 年度にかけて増加した。一方、令和 7 年度の県北部区域における 1 頭あたりの捕獲コストは、103,505 円となった。 (県北部区域及び県中部区域における 1 頭あたりの捕獲コスト) 令和 4 年度 94,624 円 令和 5 年度 99,562 円 令和 6 年度 113,231 円 (県北部区域における 1 頭あたりの捕獲コスト) 令和 7 年度 103,505 円
	改善点：特になし

2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：7班体制で事業を実施した。捕獲目標対し、十分な体制で実施した。
	改善点：引き続き必要な実施体制を確保する。
【個体処分】	評価：焼却、自家消費により適切に処分した。
	改善点：引き続き適切に処分する。
【環境配慮】	評価：実施区域では捕獲に関する事前調整が行われたことで、周囲からの苦情もなく適切に実施した。
	改善点：引き続き環境に配慮して実施する。
【安全管理】	評価：わなの設置及び巡回は2名以上で1組体制とし、わな本体及び周辺に注意喚起の看板を設置することで、捕獲作業者及び実施区域周辺の利用者の安全に配慮した。
	改善点：引き続き安全管理に配慮して実施する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
本実施区域内には、イノシシが高密度に生息していると考えられる地域がある。実施区域内の比較的生息密度が低い地域への捕獲圧を維持する一方で、高密度地域への捕獲圧を高めるなど、捕獲努力量の分配が適切になるよう改善していく。	
4. 全体評価	
- 令和7年度は、目標捕獲頭数を大きく上回った。また、CPUEが前年度より大きく向上したことに加え、成獣メスの割合も目標（全体の捕獲頭数の3割）に届かないながらも前年度を上回った。以上のことから、令和7年度は効率的な捕獲が実施できたと評価される。 - 一方で、地域全体として相対密度指標に減少傾向がみられていないことから、「生息密度の低下」という目標には至っていないと考えられ、相対密度指標の値が高止まりしている印西市を中心に引き続き捕獲圧をかけ続ける必要がある。 - また、令和7年に相対密度指標値が高くなった多古町（TK）は、捕獲圧をかける必要があると考えられる。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	自然環境とバランスのとれた形でイノシシの個体群管理を図りつつ、以下を管理の目標とする。 ①農作物被害の抑制 ②生活環境被害の抑制 ③分布域の拡大防止
寄与状況の評価	特定計画では、農作物被害の抑制、生活環境被害の抑制、分布域の拡大防止を目標としており、本事業では生息域の拡大防止及び豚熱感染拡大のリスク低減を図ることを目的に、イノシシの生息域の外縁部（県中部区域）及び捕獲重点エリア（県北部区域）において捕獲を実施した。 捕獲重点エリアである県北部区域では、目標頭数を大きく上回る捕獲結果が得られ、効率的な捕獲が実施できたと評価され、①～③の目標に達成に向けて、寄与していると考えられる。 一方で、地域全体として相対密度指標に減少傾向がみられていないことから、「生息密度の低下」という目標には至っていないと考えられ、相対密度指標の値が高止まりしている印西市を中心に引き続き捕獲圧をかけ続ける必要がある。 生息域の拡大防止を図るには、最新の生息情報を踏まえ、事業の実施期間や実施区域を適切に選定することで、本事業の効果を高める必要がある。

評価シート（イノシシ：県中部区域）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	県中部区域
事業主体	千葉県 環境生活部 自然保護課
事業実施期間	令和7年6月2日～令和7年12月16日
捕獲手法	くくりわな、箱わな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	21,978,419 円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

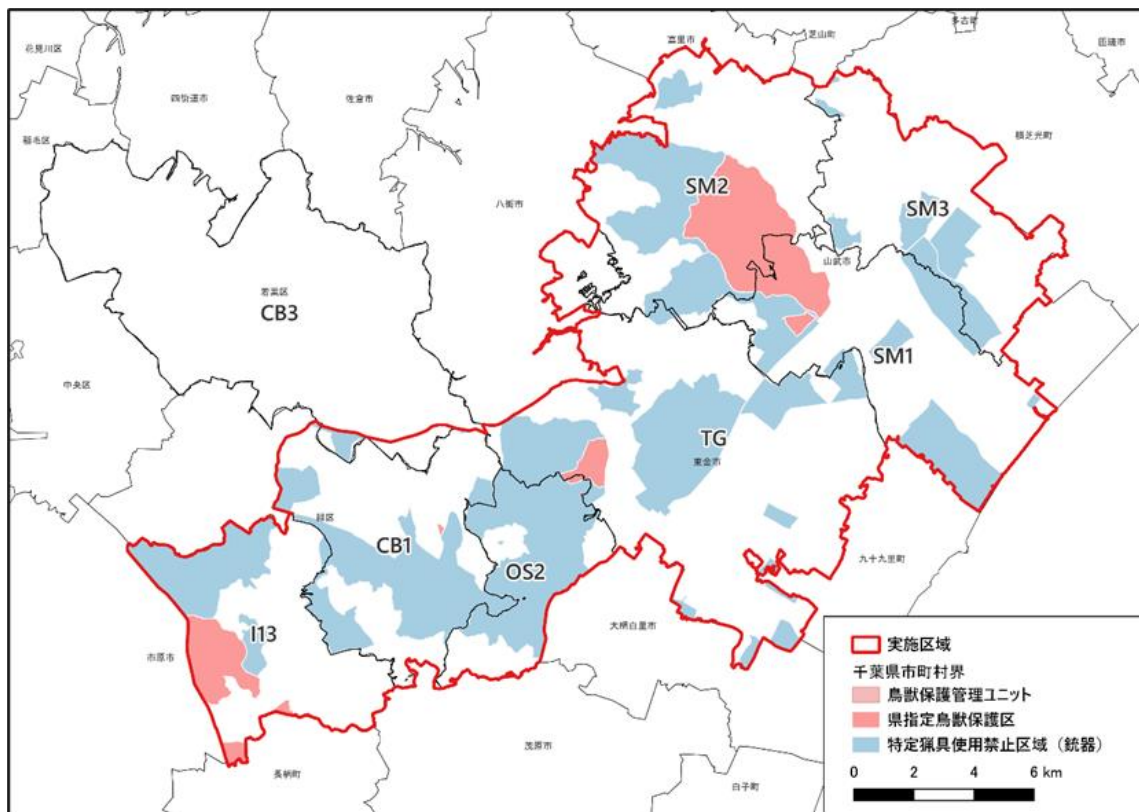


図1 イノシシの指定管理事業実施区域（県中部地域）

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	130 頭 (うち成獣メスは全捕獲数の 3 割程度)	くくりわな：241 頭 箱わな：65 頭 計：306 頭 (うち、成獣メスの捕獲頭数：87 頭)	捕獲目標の達成率は 235%で、平成 27 年度以降最多となった。 成獣メスの捕獲割合は、24.8%にとどまり、目標には届かなかった。
捕獲作業量	110 日間程度の期間で捕獲を実施 (90 カ所程度) (前年度事業の実績) くくりわな：21,384 わな日 箱わな：1,286 わな日	くくりわな:21,391 わな日 箱わな：1,853 わな日	くくりわなは前年度と同程度の作業量であったが、箱わなは前年度より 500 わな日以上作業量が増加した。
効率的な捕獲	予定なし (前年度事業の実績) くくりわな CPUE：8.23 箱わな CPUE：47.43 ※CPUE:(捕獲数/わな日)×1000 で算出	くくりわな CPUE：11.27 箱わな CPUE：35.08 ※CPUE：(捕獲数/わな日)×1000 で算出	令和 7 年度のくくりわなの CPUE は、令和 6 年度を上回ったが、箱わなは令和 5 年度以降 CPUE が低下し続けている。
事業に要した人員数	予定なし	計 1,913 人日	従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.16 頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出した。	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、実施区域の関係者と協議の上、埋設や焼却等適切に処理した。	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・ 非鉛製銃弾を使用 ・ 錯誤捕獲防止用わなを使用	・ 非鉛製銃弾を使用 ・ 錯誤捕獲防止用わなを使用 ・	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	予定なし (前年度捕獲事業の実績) 成獣メス 43 頭 (18.1%) 成獣オス 60 頭 (25.3%) 幼獣メス 49 頭 (20.7%) 幼獣オス 85 頭 (35.9%) ※ () 内の数値は、合計捕獲頭数に対する割合	成獣メス 76 頭 (24.8%) 成獣オス 87 頭 (28.4%) 幼獣メス 67 頭 (21.9%) 幼獣オス 76 頭 (24.8%) ※ () 内の数値は、合計捕獲頭数に対する割合	成獣メスの捕獲割合はおよそ 24.8%と目標よりも低い水準となったが、令和 6 年度(18.1%)より増加した。

表 2 年度別のわな捕獲の作業及び捕獲状況（県中部地域）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
くりわな											
わな数	76	81	95	140	141	153	159	204	184	202	186
わな日	1,601	7,591	8,896	15,960	16,120	17,282	17,752	19,003	21,170	21,384	21,391
空はじき	29	49	27	20	130	199	263	170	189	246	279
空はじき率	18.11	6.46	3.04	1.25	8.06	11.51	14.82	8.95	8.93	11.50	13.04
捕獲数	9	32	14	56	69	97	103	167	143	176	241
成獣メス割合(%)	66.7	28.1	21.4	37.5	31.9	28.9	34.0	25.7	28.7	21.6	27.4
幼獣割合(%)	0.0	15.6	57.1	42.9	47.8	54.6	40.8	46.7	49.0	47.7	42.3
CPUE	5.62	4.22	1.57	3.51	4.28	5.61	5.80	8.79	6.75	8.23	11.27
箱わな											
わな数	10	9	9	10	9	13	15	17	10	12	12
わな日	310	906	1,033	1,140	1,041	1,475	1,502	1,053	1,163	1,286	1,853
捕獲数	0	9	13	11	25	52	30	46	62	61	65
成獣メス割合(%)	—	44.4	7.7	9.1	8.0	1.9	16.7	13.0	9.7	9.8	15.4
幼獣割合(%)	—	33.3	76.9	81.8	92.0	94.2	83.3	78.3	91.9	82.0	63.1
CPUE	0	9.93	12.58	9.65	24.02	35.25	19.97	43.68	53.31	47.43	35.08
合計											
目標捕獲数	—	60	66	50	50	60	100	100	130	130	130
捕獲数	9	41	27	67	94	149	134	213	205	237	306
成獣メス割合(%)	66.7	31.7	14.8	32.8	25.5	19.5	29.9	23.0	22.4	18.1	24.8
幼獣割合(%)	0.0	19.5	66.7	49.3	59.6	68.5	50.0	53.5	62.0	56.5	46.7

※CPUE は（捕獲数/わな日）×1000、空はじき率は（空はじき/わな日）×1000

※平成 27 年度は目標捕獲数の設定なし

※平成 27-28 年度は主に冬期、平成 29 年度以降は夏期から秋期にかけて捕獲を実施

※R3 の合計捕獲数にはわな種不明のオス 1 頭を含む

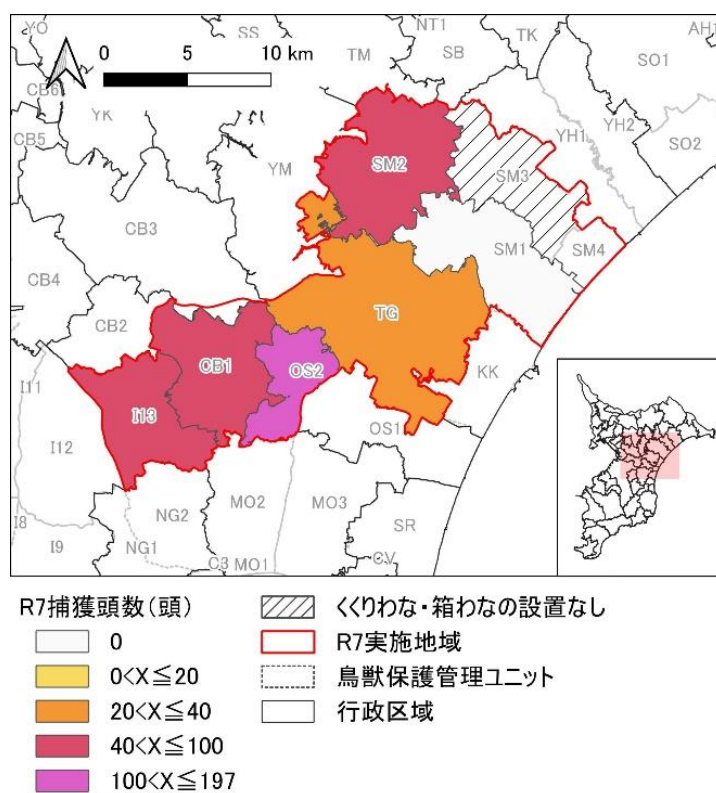


図 2 ユニットごとの捕獲数

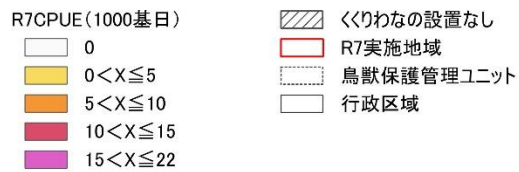
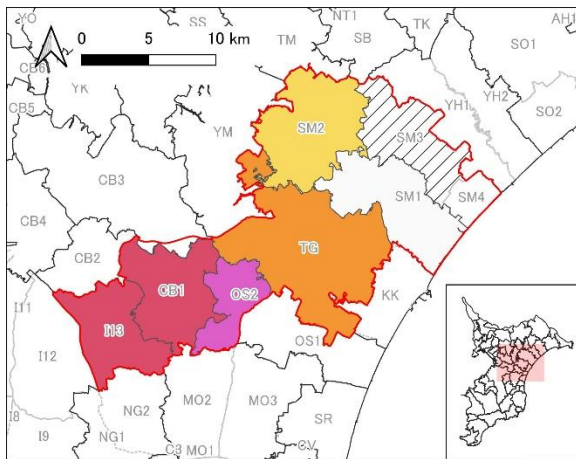


図3 ユニットごとのCPUE（くくりわな）

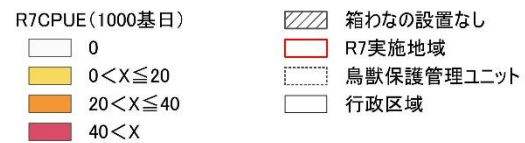
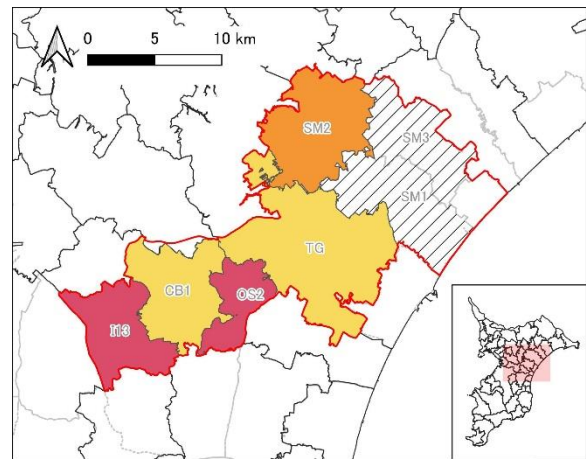


図4 ユニットごとのCPUE（箱わな）

※くくりわなと箱わなのCPUEは値の幅が異なるため、それぞれ異なる凡例の数値を設定している点に留意。

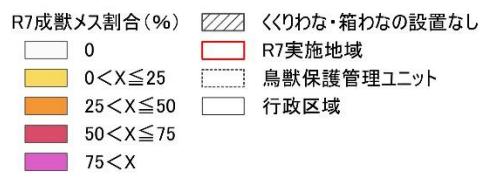
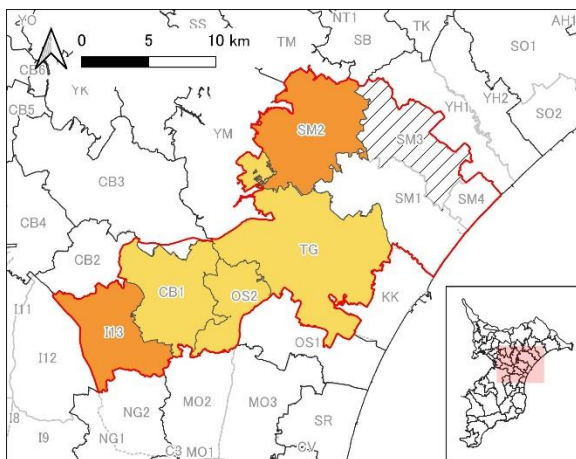


図5 ユニットごとの成獣メス割合

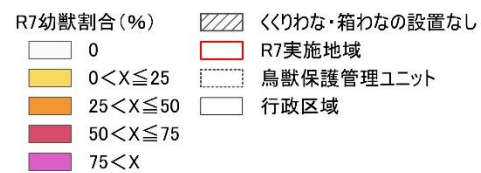
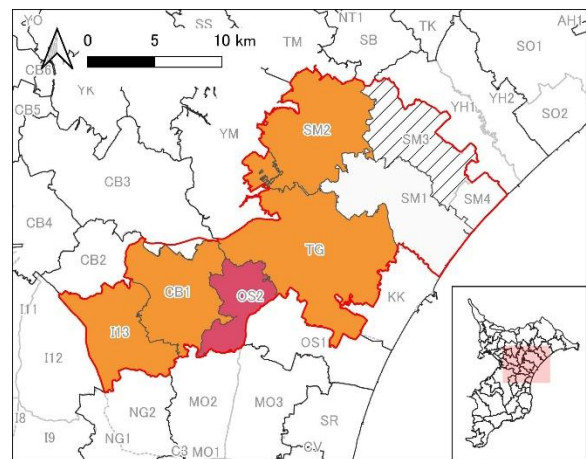


図6 ユニットごとの幼獣割合

STEP 2 捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

県中部区域

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	※イノシシは個体数の変動が大きいいため、本事業では単年度の比較ではなく、3年間の傾向に基づいた評価を行っている。このため、本項では事業前後の比較ではなく、事業実施期間を含む3年間のイノシシの相対密度の傾向を整理した。 ●モニタリング方法 自動撮影カメラ及び痕跡調査
事業実施後もしくは事業終盤・後半	⇒イノシシの撮影頻度と痕跡密度から相対密度指標（統合密度指標）を算出し、傾向を評価 ●結果 ・ 千葉市（CB1、CB3）、大網白里市（OS2）、山武市（SM2、SM3）、東金市（TG）は、令和5年から令和7年にかけて相対密度指標に増加の傾向がみられた。 一方、茂原市（M02）では相対密度指標に減少傾向がみられた。
評価	多くのユニットで相対密度指標が増加の傾向を示しているため、地域全体として「生息密度の低下」という目標には至っていないと考えられる。

表3 相対密度指標（統合密度指標）の推移（県中部区域）

市町村	ユニット	R05	R06	R07
千葉市	CB1	-0.40	-0.22	0.38
千葉市	CB3	-0.71	-0.52	-0.29
市原市	I13	0.49	1.52	0.50
茂原市	M02	1.47	0.80	-0.35
大網白里市	OS2	0.29	0.47	0.91
山武市	SM1	-	-	0.13
山武市	SM2	0.12	0.48	0.57
山武市	SM3	-0.75	-0.80	-0.44
東金市	TG	-0.30	-0.16	0.17

値低



値高

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	—
事業実施後もしくは事業終盤・後半	—
評価	—

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：捕獲目標 130 頭（うち成獣メスを全捕獲数の 3 割程度）に対して、捕獲実績は 306 頭（235%）であり、捕獲目標を達成した。一方、成獣メスの捕獲割合は全体の 24.8%となり、捕獲目標には届かなかった。
	改善点：次期計画では、今年度の捕獲実績と成獣メスの捕獲割合を参考にして、捕獲目標を検討する。
【実施期間】	評価：110 日程度の捕獲作業の予定日数に対し、6 月～12 月の期間にかけて 120 日程度の捕獲作業を実施し、捕獲目標を達成した。
	改善点：捕獲目標を達成するために必要な実施期間を設けて引き続き適切に期間を設定する。
【実施位置】	評価：イノシシが近年定着、増加が確認されている地域に実施区域が設けられており、分布拡大を防止するために有効である地域で捕獲が実施されたと考えられる。
	改善点：イノシシの生息状況を勘案し、引き続き適切に区域を設定する。
【捕獲手法】	評価：くくりわな 186 基、箱わな 12 基を用いて実施した。 機動性が高く、成獣メスの捕獲割合が高いくくりわなを使用することで、イノシシの利用状況の変化に対応して捕獲を実施することができた。 くくりわな及び箱わなともに CPUE は令和 6 年度と比較して大きく増加したが、成獣メスの捕獲割合は、目標の 3 割に届かなかった。
	改善点：くくりわなは、成獣メスの捕獲割合が箱わなに比べて高く、成獣メスの捕獲に有効であった。一方で、箱わなの CPUE はくくりわなの CPUE より高く、多くの個体を効率的に捕獲できた。そのため、くくりわなと箱わなの長所を活かしながら、引き続き、両手法を併用して捕獲を進める。
【捕獲コスト】	評価： 県北部及び県中部区域における 1 頭あたりの捕獲コストは令和 4 年度から令和 6 年度にかけて増加した。一方、令和 7 年度の県北部区域における 1 頭あたりの捕獲コストは、71,825 円となった。
	（県北部区域及び県中部区域における 1 頭あたりの捕獲コスト） 令和 4 年度 94,624 円 令和 5 年度 99,562 円 令和 6 年度 113,231 円 （県中部区域における 1 頭あたりの捕獲コスト） 令和 7 年度 71,825 円 改善点：特になし

2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：5 班体制で事業を実施した。捕獲目標に対し、十分な体制で実施した。
	改善点：引き続き必要な実施体制を確保する。
【個体処分】	評価：埋設、焼却、自家消費により適切に処分した。
	改善点：引き続き適切に処分する。
【環境配慮】	評価：実施区域では捕獲に関する事前調整が行われたことで、周囲からの苦情もなく適切に実施した。
	改善点：引き続き環境に配慮して実施する。
【安全管理】	評価：わなの設置及び巡回は 2 名以上で 1 組体制とし、わな本体及び周辺に注意喚起の看板を設置することで、捕獲作業者及び実施区域周辺の利用者の安全に配慮した。
	改善点：引き続き安全管理に配慮して実施する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
分布拡大防止を図るためには、適切な地域で捕獲を実施することが重要である。そのため、引き続き実施区域外の情報も積極的に収集し、定着や増加の兆候（成獣メス、幼獣の目撃や捕獲等）が確認された場合は実施区域の変更も柔軟に検討する。	
4. 全体評価	
- 令和 7 年度は、目標捕獲頭数を大きく上回った。また、CPUE が前年度より大きく向上したことに加え、成獣メスの割合も目標（全体の捕獲頭数の 3 割）に届かないながらも前年度を上回った。以上のことから、令和 7 年度は効率的な捕獲が実施できたと評価される。 - 一方で、多くのユニットで相対密度指標が増加の傾向を示しているため、県中部区域全体として「生息密度の低下」という目標には至っていないと考えられ、今後も本区域に捕獲圧をかけ続ける必要がある。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	自然環境とバランスのとれた形でイノシシの個体群管理を図りつつ、以下を管理の目標とする。 ①農作物被害の抑制 ②生活環境被害の抑制 ③分布域の拡大防止
寄与状況の評価	特定計画では、農作物被害の抑制、生活環境被害の抑制、分布域の拡大防止を目標としており、本事業では生息域の拡大防止及び豚熱感染拡大のリスク低減を図ることを目的に、イノシシの生息域の外縁部（県中部区域）及び捕獲重点エリア（県北部区域）において捕獲を実施した。 イノシシの生息域の外縁部である県中部区域では、目標頭数を大きく上回る捕獲結果が得られ、効率的な捕獲が実施できたと評価され、①～③の目標に達成に向けて、寄与していると考えられる。 一方で、多くのユニットで相対密度指標が増加の傾向を示しているため、県中部区域全体として「生息密度の低下」という目標には至っていないと考えられ、今後も本区域に捕獲圧をかけ続ける必要がある。 生息域の拡大防止を図るには、最新の生息情報を踏まえ、事業の実施期間や実施区域を適切に選定することで、本事業の効果を高める必要がある。